

視察報告



建設水道委員会

平成 30 年 10 月 31 日～ 11 月 2 日

静岡県浜松市 「下水道事業のコンセッション方式」

三重県津市 「水道事業の官民連携」

滋賀県東近江市 「空き家対策事業」



▲水道事業の官民連携について学びました（津市）

浜松市では、下水道事業に全国で初めてコンセッション方式を導入しています。本方式は、市が施設の所有権を有したまま民間事業者が運営を行うもので、浜松市では市内 11 処理区のうち 1 処理区に本方式を導入しており、事業費削減の効果はありますが、事業者の報告漏れ等があり、密なる連携が必要とのことでした。

津市では、水道事業において、水道料金の収納・窓口・検針等の業務を一括して委託する包括的民間委託を導入しており、職員数の削減や収納率・利用者サービスの向上が図られたとのことでした。その他の業務

委託も検討しているが、業務内容の浸透や継続等が課題であるとのことでした。水道事業は、人口減少による水の需要の減少、水道施設、管路の老朽化、人材不足等の課題に直面しています。今回の視察では、それぞれの事業手法について、導入経緯や事業運営等の比較ができ大変参考になりました。

東近江市では、いち早く空き家等の実態調査をし「空家等対策計画」を策定、空き家・空き店舗バンクの設置等さまざまな取り組みを行っていました。

これらの先進事例を参考に今後、具体的に調査研究を進めていきます。

平成 30 年 7 月 17 日～ 19 日

愛知県一宮市 「尾張一宮駅周辺地域再生整備事業」

愛媛県松山市 「松山駅周辺整備事業」

兵庫県西宮市 「阪神本線連続立体交差事業及び鳴尾駅周辺土地区画整理事業」

沼津駅鉄道高架事業推進特別委員会

一宮市では、高架事業完成後に 7 階建ての駅前ビル「iービル」を建てかえ、図書館や子育て支援センター、観光案内所、多目的ルーム（稼働率 90%）等の公共機能が充実しており、駅を「通過する場所」から「滞在する場所」に変え、駅周辺を活性化させる仕組みをつくり出していました。本市でも鉄道高架実現の際には駅ビルが建てかえられることが想定されます。ハードやソフト面の「滞在する場所」の仕組みづくりの手法の一つとして参考になりました。

松山市では、松山駅周辺のまちづくり事業について視察しました。こ

の事業は、JR 松山駅周辺での高架事業と土地区画整理事業、行き違い線、北伊予駅改良、車両基地・貨物駅移転が関連事業として実施されていました。

西宮市では、阪神本線連続立体交差事業を視察しました。高架化した鳴尾駅舎のデザインは、地元大学の学生が設計プロジェクトに参画し産学連携を図っており、貴重な事例として今後の参考になりました。駅舎デザインの主体は鉄道会社ですが、駅周辺のまちづくりについて産学官連携がとれるように、今後も事業の推進に向け取り組んでいきます。



▲松山駅周辺整備事業について説明を受けた後、駅前の様子を視察しました（松山市）